

オープンプラットフォームの仕組み1 “3つのオープンプラットフォームの概要”

オープンプラットフォームの概要



- 第1期の骨格であったコア研究領域、コアインフラ、開発研究連携領域から、連携の自由度を高める「オープンプラットフォーム」へ移行しました。
- ワンストップ化に必要な仕組みを4機関が連携して構築します。
- 中核機関の知の創造・強化を核とした新たな領域を展開するとともに、オープンプラットフォームに対するニーズを捉えて企業に訴求する新たな提案、機能の更新を図るマネジメント能力を高めます。

強化する機能と取組み

- ニーズに応えられる新たな提案やプラットフォームの拡充に向けた「知の創造・強化」につなげる機能
- 情報発信の強化、ニーズ・シーズ調査や技術戦略策定等、マーケティング機能 ⇒ 新たな連携に関する企画・交流
- 企業、大学、研究開発法人の他、ファンド(金融・証券・商社等)との連携も形成 ⇒ 新たな市場の開拓
- つくばのアセットを生かした新しい人材育成の仕組み(Nanotech CUPALなど) ⇒ 国内外の機関との連携拡大

■ マネージメント機能

1. 「ワンストップ化」の推進: ユーザの利便性を高める。
2. 「連携企画」の強化: 知の創造・強化と産業化-橋渡し-へ向けた提案力で価値を高める。
3. 「ブランド構築」の実現: 国内外でのプレゼンスを高める。

■ オープンプラットフォーム

- オープンプラットフォームの運営は、各々に「マネージメントグループ」を形成して実施しています。

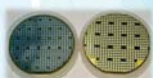
● システム化プラットフォーム

- 1 ナノエレクトロニクス
産総研SCRを中核にしたSiデバイス実証評価施設及びSiデバイス研究の知の蓄積



最先端デバイス製造施設
※スーパークリーンルーム

- 2 パワーエレクトロニクス
TPECが運営する産総研の長年にわたるSiC研究を基にした知の蓄積と研究開発施設



最先端SiCパワーデバイス研究
※SiC素子量産試作品

- 3 MEMS
200/300mm集積MEMS試作ファンドリーおよびMEMS研究の知の蓄積



最先端のニーズに応える
MEMS開発拠点とファンドリーサービス

● 先進材料プラットフォーム

- 1 ナノグリーン
環境・エネルギー技術のブレイクスルー実現に向けた物質・材料研究の蓄積と先端研究開発施設



ナノグリーンの中核施設
※NIMS Nano-Green棟

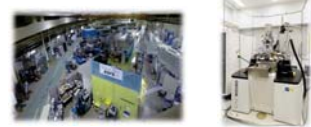
- 2 カーボンナノチューブ
CNT量産実証施設とCNT量産化、安全性評価、複合材料研究の知の蓄積



スーパー臨界法によるSWCNTの工業的量产技術
※大面積連続合成炉

● 共通基盤プラットフォーム

- 1 計測技術
光・量子発生および計測技術の革新とその利用研究の高度化等の「光・量子産業応用イニシアチブ」の推進



世界最新・最先端のナノ計測・分析装置群
※フォトンファクトリー(左) ※ヘリウムイオン顕微鏡

- 2 人材育成
CUPAL事業、サマーオープンフェスティバル、学位プログラムの創設などの人材育成事業

- 3 共用施設ネットワーク
先進施設とそこに蓄積した知の共用化及びナノテクノロジープラットフォーム事業等による共用施設の全国ネットワーク化



つくば共用研究施設データベース
TIA-nanoの有する300以上の共用装置を登録